

(調査様式1)

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和7年3月28日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4694300106
法人名	社会福祉法人 椎原寿恵会
事業所名	グループホーム 椎原館
所在地	鹿児島県南九州市川辺町中山田1892番地 (電話) (0993)58-9391
自己評価作成日	令和7年2月17日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センター福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和7年3月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・ 静かな落ち着いた環境、家庭的な雰囲気のなかで穏やかに生活を送っていただけるように支援している。
- ・ ご本人のこれまでの生活歴を把握し、持っていらっしゃる能力を生かせるように関わっている。
- ・ 提携病院と協力し健康管理に務めることで、ご本人、ご家族が安心して生活出来るように支援している。職員間での情報共有を心がけている。
- ・ 生活の中で、楽しみ(レクリエーションや外出)を提供できるように努めている。
- ・ 季節に添った行事を行ったり、花を飾ったりし季節感を感じられるようにしている。
- ・ 日々の食事が美味しいものであるように、季節のものを取り入れたり、食べやすいように個別対応している。
- ・ 敷地内プランター等で育てた野菜を、日々の食卓にあげて召し上がっていただいている。可能な方は収穫を楽しんでいただき、自分で収穫したものを食していただいている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・ 当事業所は川辺町郊外の静かな地域に立地し、こども園に隣接している。地域行事は総会や清掃活動への参加程度であるが、こども園の散歩時の窓越し交流や近隣住民からの野菜の差入れ等での日常的な交流が行われている。また、事業所では毎月1回利用者も一緒に地域のゴミ拾いも行っている。
- ・ 系列の協力医療機関による月2回の訪問診療や週1回の訪問看護師の健康チェック及びオンコール体制等、夜間・緊急時を含めた医療連携体制が整っており、家族の安心につながっている。
- ・ 管理者・職員は、家族との居室面会や外出・外泊での交流を支援するとともに、事業所からも毎月写真を添えた近況報告を行って利用者をより身近に感じてもらえるよう取り組んでいる。
- ・ 管理者は、日頃から職員が意見を出しやすい職場環境づくりに努め、職員が意欲を持って業務に取り組めるよう休憩時間や有給取得、資格取得の助成などにも配慮して取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ．理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念を作成。毎朝のミーティングで唱和し、全職員で共有。仕事始めに唱和し、意識して仕事が行えるように取り組んでいる。実現にむけて日々努めている。	理念をホール及び玄関に掲示し、申し送り時に唱和・確認してケアに取り組んでおり、パンフレットにも掲載している。毎月職員会議時にケアの振り返りと目標を設定している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との交流はまだまだ回復していない。今後も回復できるように努めていく。現在、町内会に参加、近隣のこども園から諸事依頼がある時は協力、月に1度入居者と地域のごみ拾いを行っている。	自治会に加入し、2年に1回の総会と清掃活動に参加している。事業所でも毎月1回利用者と一緒に地域のごみ拾いをしており、こども園の散歩時に窓越し交流をしたり、近隣住民からの野菜の差入れを受けている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	地域の一員として、認知症の方への理解や支援の方法をお伝え出来ていない。認知症カフェ等考えられるが、人員不足の為、実施できないのが現状。運営推進会議にて、ご報告はしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	感染症対策のため、近隣の公民館で2ヶ月に1回開催。状況が伝わるように写真を用意している。ケアや運営に関する報告を行い、意見をいただき、サービスの向上や改善に努めている。	地区公民館で2ヶ月に1回運営推進会議を実施し、事業所の状況報告を行い、資料以外に写真も提供している。委員からの服薬事故防止のための助言を活かして改善に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	市の担当者とは、運営推進会議や、日頃の報告・相談等で連携をとり、助言や指導をもらっている。良い協力関係を築けるように、報告・連絡・相談を怠らないように努めている。	市や支所の担当者とは日頃から連絡を密にしており、生活保護担当者とも年数回の来訪時の意見交換等で協力関係を築いている。市主催や協議会との共催の研修に参加している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止に関する指針を作成。3ヵ月に1回、身体拘束廃止委員会を開催し、欠席者は議事録で情報を共有している。全職員に研修を通して、身体拘束は入居者を傷つける行為であることを教育し、防止に徹底して取り組んでいる。	指針を作成し、委員会を3ヶ月に1回、研修を年2回実施し、法人の合同研修会にも参加している。スピーチロックに気づいた時は管理者から注意を促している。玄関は施錠せず、入り口のカメラ等で外に出ていく利用者に気づいた時は、行動を制限せず散歩等に同行している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関する指針を作成。6ヵ月に1回、虐待防止委員会を開催し、欠席者は議事録で情報を共有している。全職員に研修を通して、虐待を見逃さない、不適切な行為があった時はお互いに声をかけ合える関係性を築けるように教育に取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	全職員に研修を通して、教育を行っている。理解が不十分な職員もあり、今後も定期的に教育を行う。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	直接お会い出来るときはご理解、納得出来るようにお話させてもらっている。直接お会いできない時は、説明の注釈を添えて読んでもらっている。いずれの場合も、いつでもご質問を受け付ける旨をお伝えしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご意見、ご要望があれば、いつでも受け付けることをご説明している。ご意見、ご要望が聞かれた際は、運営に活かし改善に努めている。外部者には、運営推進会議で必要に応じて報告している。	利用者には日常会話の中で要望を聞き、外出や屋外での活動希望には職員同行の散歩で対応している。家族には電話や面会時に要望を聞き、その都度対応できるよう努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	管理者は職員との円滑なコミュニケーションが取れるように努め、日常的に話出来る雰囲気を作っている。また、朝のミーティング、月1回の職員会議の場でも機会を設け、運営に活かすようにしている。	管理者は朝の申し送りや毎月の職員会議時に意見を聞く機会を設けており、職員の意見で、リネン交換の見直し等の業務改善やケアの統一に反映させている。個別相談は管理者が受けて対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	令和6年度も職員の入退職が続き、安定した職場環境が提供出来たとはいえなかった。理事長が管理者と年に1回面談し、職員状況や職場環境について次年度の目標を立てている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修、動画視聴による研修により、学びの場を設けている。人員不足で、法人外研修に職員を参加させることが出来なかったが、令和7年度は学びの機会を増やしたいと考えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人外研修、グループホーム協議会等は対面での開催が増え、交流する機会が増えた。令和6年度、7年度は管理者がグループホーム協議会の役員に就き、ネットワークづくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の思いを汲み取れるように努めている。ご本人のことを知ることが出来るように、話をしてもらえる関係性をつくるように努めている。ご本人が上手く伝えられない方なら、ご家族にお話を伺っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の思いを汲み取れるように努めている。話してもらえる関係性をつくるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居に至った今必要としている支援を第一に、落ち着いて生活が送れるように対応をしている。必要に応じて、行政、その他のサービスについてご説明、ご案内をしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人が今まで培ってきた能力を活かして暮らせるように、職員とお互いに助け合える関係性を築くようにしている。人生の先輩として敬う気持ちを忘れずに接するよう心がけている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に状況を報告し、ケアの進め方を相談させてもらっている。ご家族とご本人が交流できるように連絡を取り持ったり、会える場を設けている。受診付き添い等の協力もお願いしている。各ご家族のあり方を尊重し、関係性を築くようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの関係や場所について、把握するように努めている。電話や手紙の取次、面会、外出、外泊の支援に努めている。ドライブの時には、馴染みの場所を訪れたり、墓参りの機会をつくっている。	家族との面会や外出・外泊による交流を支援し、事業所からも近況報告に写真を添付する等、関係が途切れないように努めている。墓参りや自宅付近へのドライブに職員が同行することもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活の場であるので、良好な関係を保てるように職員が間を取り持つようにしている。レクリエーションやお茶の時間などで、希望する入居者方が集まれる場を提供している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後であっても、依頼があれば関係機関との調整や相談に応じている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人の思いや希望は、生活歴を踏まえた上で、日常生活で関わる中で把握するよう努めている。ご本人が上手く伝えられない時は、ご家族から情報を得たり、表情やしぐさから汲み取るように努めている。	自分で話しかけて来ることもあるが、多くは個別ケア時や居室でゆっくり話を聞いて本人の思いを把握できるよう努めている。困難な場合は、家族の情報を参考に日頃の関わりの中で思いを汲み取るようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居開始前に聴取した情報を、全職員で共有し把握している。ご本人からも、昔のことを伺ったりと努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中で、その方を知ることが出来るように観察し、記録等で全職員が把握できるようにしている。他職員と連携し相談しながら把握に努めている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月2回の訪問診療時医師、週1回の訪問看護看護師、薬剤師の意見、生活状況、心身の状態、認定調査結果等を元に毎月の職員会議でモニタリングを実施。ご本人、ご家族の意向をお聞きして、作成。入院等、状態に変化があった時は、随時見直し現状に即した計画となるようにしている。	電話や面会時に家族の希望を聞き、職員会議で検討して介護計画を作成している。モニタリングは毎日計画に基づいてチェックし、6ヶ月計画で月毎及び状況変化時に現状に合った計画に見直している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録の仕方に職員間で能力差があり、一定の水準にするのが今後の課題。情報の共有が出来るように、申し送り等で伝えて実践につなげるようにしている。記録により、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービス提供にとらわれていることが多い。ご本人、ご家族からのニーズがあれば、可能な限り必要なサービスが提供できるように取り組んでいきたい。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設に入居した時点で、暮らしていた場所から離れることとなり、今までの地域資源を活かなくなっている。協力し合える地域資源の発掘が、今後の課題。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の同意を得て、協力医療機関をかかりつけ医としている。月2回の訪問診療の利用が出来る。また24時間オンコール体制により、訪問看護師を通して医師の指示を受けることが出来る。希望する医療機関への受診の支援もしている。	契約時にかかりつけ医の希望を確認し、全員協力医療機関の訪問診療を受けている。歯科及び他科受診は家族対応が基本である。訪問看護師の週1回の健康チェック及び緊急時等のオンコール体制があり、適切な医療を受けられるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回、訪問看護師が来た時に、報告、相談を行い、適切な看護を受けることが出来るように支援している。また24時間オンコール体制をとっており、随時電話連絡、報告、相談を行って、入居者の健康に配慮している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関である有馬病院とは、日頃から情報交換をしている。他医療機関の場合は、入院時に情報提供を行っている。いずれの場合でも、経過は都度連絡を取って確認し、早期退院につながるようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「医療連携体制及び重度化対応の指針について」を入居時にご説明し、同意を得ている。看取りは行っておらず、医療処置が必要な場合は、入院を選択されることが多い。重度化した時点でご家族、関係者間で話し合い、可能な限り椎原館で支援・対応出来るように取り組んでいる。	契約時に重度化等の場合の対応について指針で説明し、同意書をもっている。重度化等の場合、家族の意向を確認して、意向に沿って可能な限り支援に努めており、最終的に入院の選択が多くなっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修を通じて、教育を行っている。とっさの時に動けるかどうかは経験によるものが大きいので、実践で学べるように努めていく。資料等は定期的に見直している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人全体でBCPを作成。火災に関しては、年2回消防署立会いの下で日中、夜間想定 of 訓練を行っている。全職員が避難方法を身につけているとは言えないので、今後も研修、訓練を行っていく。地域との協力体制としては自治会で相談しており、今後合同で訓練出来たらいいと話合っている。	年2回昼夜想定で避難訓練を実施し、消防署の立ち合いを受けている。自動通報装置に住民の登録協力がある他、自治会と協力体制について検討している。事業継続計画（BCP）については法人で策定中である。非常用の備蓄は、3日分の水・食料の缶詰・レトルト食品等及びカセットコンロを準備している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇の研修、月々の接遇の目標設定等、教育の機会を設けている。まだまだ対応が未熟な職員がおり、接し方や言葉遣いが相手を尊重できているか、振り返る力をつけるように努める必要がある。	研修を実施し、個々の利用者に応じた言葉遣いを基本にしている。排泄・入浴介助時の声掛けや対応は、羞恥心にも配慮している。ホールで実施する申し送り時は、プライバシーの確保に努めて行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が私の思いを聞いてくれると思ってもらえる関係性を築き、発言しやすい雰囲気づくりに努めている。意思疎通の難しい方ほど、気をつけて働きかけるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者優先の生活を目指しているが、施設側のタイムスケジュール優先になっていることもある。意識を変えるように、職員会議等で共通認識をつくるように努めていく。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	身につけるものは、相談しながら決めるように努めている。他の方々に接する前に、一緒に身だしなみを整えている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は施設で調理。食材はプランターで作ったものも活用している。行事食や要望、手作りおやつなどを取り入れ、食事を楽しめるように工夫している。入居者の方と一緒に下ごしらえや台拭き等行っているが、能力を活かしきれないと感じる。	食材は配達してもらい、ミキサー食等の個々に応じた食事形態で提供している。利用者も一緒に下ごしらえやお盆拭きをしている。季節の行事食や誕生日の好物・弁当持参の花見・外でのお茶等、食事を楽しんでもらえるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は個々に合わせた量を提供。食事量、水分量は記録に残し、変化がないかを観察して、健康を保てるように支援している。食事形態も、個々に合わせて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、ご本人で出来る方は声かけをし、出来ない方は付き添って手伝い、口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排尿、排便チェックを行い、排泄パターンをつかむようにしている。羞恥心を傷つけない関わりを心がけている。	日中はトイレでの排泄を基本に支援し、排泄パターンを参考に声掛け・誘導を行っており、布パンツを維持できている利用者も数名いる。排泄用品は個々に応じた適切なものを使用しており、夜間のみポータブルトイレを使用する利用者もある。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを行い、形状や量、回数を確認。便秘の時は、通じの良くなる食物をすすめたり、訪問看護師に相談し便秘薬の調整を行っている。運動への働きかけは、本人意欲によるので難しいが、すすめている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	週3回、午後からの入浴を提供している。施設内であり、曜日と時間帯は決めさせていただいている。早い時間帯がいい方は、最初に声をかける等の配慮は行っている。入浴を楽しんでいただけるように努めている。	週3回午後に入浴支援を実施しシャワー浴もある。希望で同性介助を行ったり、ゆず湯・しょうぶ湯も楽しんでいる。入浴を嫌がる場合は、声掛けを工夫して入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の気持ちを大切に、休みたいときに休めるように支援している。夜間は照明や室温、物音等に配慮し安心して眠ることが出来るように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が処方箋を確認できるよう準備。変更時は申し送りで伝え、後の状態変化を観察している。提供時は複数人で重ねて確認し、誤薬を防ぐよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で能力を活かして、役割を持ってもらえるように支援している。ご本人の楽しみ、好みを尊重して生活を遅れるように支援している。気分転換ができる機会を増やしたい。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	入居者方の希望を伺いながら、行事の計画を立てて、外出の支援を行っている。ご家族との外出や外泊は、制限なくお勧めしている。その日の希望での外出というのは、施設運営上職員数が確保できないので難しい。	天候の良い日は近隣の散歩をしている。年間計画を作成し、初詣や季節の花、桜・アジサイ・ひまわりの花見・砂の祭典・からくり人形等の見物に出かけている。家族と外出する利用者もあり、できるだけ戸外に出かけられるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額の現金を本人希望で持ってもらうこともあるが、認知症の症状があり、本人管理が難しいのが現実。職員やご家族との買い物に行くことが出来ていないので、今後は支援したい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話の希望がある時は、やり取りが出来るように支援している。手紙を書くことは能力的に難しくなれているが、一緒に年賀状は送っている。届いた手紙は、一人で読めない方は一緒に読んでいる。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間が、落ち着ける場所、季節感が感じられる（生花を飾る、季節のしつらえ）場所であるようにしている。室温、湿度、光の具合、音等が快適であるように努めている。トイレ等、電気が使用時に点灯するように、電源スイッチを消さない様に張り紙をしている。	ホールは空気清浄機や加湿器・エアコン・カーテンで過ごしやすい環境に調節し、換気は窓を開けて十分行っている。季節の設えや作品で季節を感じてもらえるようにしている。利用者に自席や窓際の椅子でくつろいでもらえるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	狭いつくりではあるが、窓際にイスを置き一人で外を眺めて過ごせるようにしたり、ホールでは状況に応じて配置換えをしたりし、思い思いで過ごせるようにしている。工夫の余地はまだあると思う。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の馴染みのものを持ち込んでいただいて、その方らしい憩える生活が送れるように部屋作りを行っている。ご家族のお写真を飾らせてもらい、落ち着ける場所であるようにしつらえている。	居室には、ベッドやタンス・エアコンが備えてあり、寝具はリースである。本人は、使い慣れた寝具やテレビを持ち込んだり、写真やぬいぐるみを身近に置いて安心して過ごせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーである。また、一人でも安全に移動ができるように、障害物がないよう職員側で気をつけている。トイレの場所は分かりやすく表示している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない